

厚生労働省和歌山労働局発表  
平成30年12月25日

厚生労働省 和歌山労働局  
職業安定部 職業対策課  
課長 三谷 博己  
課長 補佐 蔵 裕慶  
地方障害者雇用担当官 神山 高幸  
電話 073-488-1161

## 和歌山県の機関、市町村の機関、和歌山県等の教育委員会及び国立大学法人等における平成30年6月1日現在の障害者の任免状況等の集計結果について

和歌山労働局（局長 まつがち あつき 松淵 厚樹）では、「障害者の雇用の促進等に関する法律に基づき、和歌山県の機関、市町村の機関、和歌山県等の教育委員会及び国立大学法人等の平成30年6月1日現在の障害者任免状況等について取りまとめましたので、公表します。

今回の集計結果は、障害者の雇用の促進等に関する法律（昭和35年法律第123号）の規定に基づき、地方公共団体及び国立大学法人等に義務付けられている毎年6月1日現在の障害者任免状況及び雇用状況の通報及び報告を集計したものです。

### 【平成30年6月1日現在の集計結果の主なポイント】

〈公的機関〉（法定雇用率2.5%及び2.4%）平成30年3月までは2.3%及び2.2%

- ・ 2.5%の法定雇用率が適用される和歌山県の機関  
雇用障害者数は89.0人(81.0人)、実雇用率2.03%(1.82%)
- ・ 2.5%の法定雇用率が適用される市町村等の機関  
雇用障害者数は244.0人(227.0人)、実雇用率2.17%(2.04%)
- ・ 2.4%の法定雇用率が適用される和歌山県教育委員会及び市町村の教育委員会  
雇用障害者数は131.0人(136.0人)、実雇用率1.95%(1.99%)

〈国立大学法人等〉（法定雇用率2.5%）

- ・ 2.5%の法定雇用率が適用される国立大学法人等の機関  
雇用障害者数は31.5人(31.0人)、実雇用率2.01%(1.97%)

※（ ）書きは前年の値

# 障害者雇用状況報告の集計結果（概要）

## 1 公的機関における在職状況

### 1 地方公共団体等における在職状況

#### (1) 和歌山県の機関（法定雇用率2.5%）

和歌山県の機関に在職している障害者の数は、89.0人で、前年より9.9%（8人）増加し、実雇用率は2.03%と前年に比べ0.21ポイント上昇した。

#### (2) 市町村等の機関（法定雇用率 2.5%）

市町村等の機関に在職している障害者の数は、244.0人で、前年より7.5%（17人）増加し、実雇用率は2.17%と前年に比べ0.13ポイント上昇した。

#### (3) 和歌山県教育委員会及び市町村の一部教育委員会（法定雇用率 2.4%）

2.4%の法定雇用率が適用される和歌山県教育委員会及び市町村の一部教育委員会に在職している障害者の数は、131.0人で、前年より3.7%（5人）減少し、実雇用率は1.95%と前年に比べ0.04ポイント低下した。

## 2 国立大学法人等における在職状況

#### (4) 国立大学法人等の機関（法定雇用率 2.5%）

国立大学法人等の機関に在職している障害者の数は、31.5人で、前年より1.6%（0.5人）増加し、実雇用率は2.01%と前年に比べ0.04ポイント上昇した。

## 総括表

### 平成30年6月1日現在における障害者の雇用状況

#### 1 地方公共団体における在職状況

##### (1) 和歌山県の機関(法定雇用率2.5%)

	① 法定雇用障害者数の算定の基礎となる職員数	② 障害者の数	③ 実雇用率	④ 法定雇用率達成機関の数 / 機関数	⑤ 達成割合
計	4,391.0 人 ( 4,448.5 人 )	89.0 人 ( 81.0 人 )	2.03 % ( 1.82 % )	0 / 2 ( 0 / 2 )	0.0 % ( 0.0 % )
和歌山県知事部局	3,978.5 人 ( 4,036.0 人 )	84.0 人 ( 77.0 人 )	2.11 % ( 1.91 % )	0 / 1 ( 0 / 1 )	0.0 % ( 0.0 % )
和歌山県警察本部	412.5 人 ( 412.5 人 )	5.0 人 ( 4.0 人 )	1.21 % ( 0.97 % )	0 / 1 ( 0 / 1 )	0.0 % ( 0.0 % )

##### (2) 市町村等の機関(法定雇用率2.5%)

	① 法定雇用障害者数の算定の基礎となる職員数	② 障害者の数	③ 実雇用率	④ 法定雇用率達成機関の数 / 機関数	⑤ 達成割合
市町村等の機関	11,253.5 人 ( 11,102.0 人 )	244.0 人 ( 227.0 人 )	2.17 % ( 2.04 % )	27 / 44 ( 28 / 43 )	61.4 % ( 65.1 % )

※市町村等の機関のうち未達成であった機関の3機関は、公表時点で達成済み。

##### (3) 和歌山県等の教育委員会(法定雇用率2.4%)

	① 法定雇用障害者数の算定の基礎となる職員数	② 障害者の数	③ 実雇用率	④ 法定雇用率達成機関の数 / 機関数	⑤ 達成割合
計	6,709.0 人 ( 6,841.0 人 )	131.0 人 ( 136.0 人 )	1.95 % ( 1.99 % )	1 / 3 ( 2 / 3 )	33.3 % ( 66.7 % )
和歌山県教育委員会	6,182.0 人 ( 6,253.0 人 )	121.0 人 ( 121.0 人 )	1.96 % ( 1.94 % )	0 / 1 ( 0 / 1 )	0.0 % ( 0.0 % )
市町村教育委員会	527.0 人 ( 588.0 人 )	10.0 人 ( 15.0 人 )	1.90 % ( 2.55 % )	1 / 2 ( 2 / 2 )	50.0 % ( 100.0 % )

#### 2 国立大学法人等における在職状況

##### (4) 国立大学法人等の機関(法定雇用率2.5%)

	① 法定雇用障害者数の算定の基礎となる労働者数	② 障害者の数	③ 実雇用率	④ 法定雇用率達成機関の数 / 機関数	⑤ 達成割合
計	1,570.5 人 ( 1,572.0 人 )	31.5 人 ( 31.0 人 )	2.01 % ( 1.97 % )	1 / 2 ( 1 / 2 )	50.0 % ( 50.0 % )
国立大学法人等	1,570.5 人 ( 1,572.0 人 )	31.5 人 ( 31.0 人 )	2.01 % ( 1.97 % )	1 / 2 ( 1 / 2 )	50.0 % ( 50.0 % )

- 注 1 1の各表の①欄の「法定雇用障害者数の算定の基礎となる職員数」とは、職員総数から除外職員数及び除外率相当職員数(旧除外職員が職員総数に占める割合を元に設定した除外率を乗じて得た数)を除いた職員数である。
- 2 2の各表の①欄の「法定雇用障害者数の算定の基礎となる労働者数」とは、常用労働者総数から除外率相当数(身体障害者、知的障害者及び精神障害者が就業することが困難であると認められる職種が相当の割合を占める業種について定められた率を乗じて得た数)を除いた労働者数である。
- 3 各表の②欄の「障害者の数」とは、身体障害者、知的障害者及び精神障害者の計であり、短時間労働者以外の重度身体障害者及び重度知的障害者については法律上、1人を2人に相当するものとしてダブルカウントを行い、重度以外の身体障害者及び知的障害者並びに精神障害者である短時間職員については法律上、1人を0.5人に相当するものとして0.5カウントとしている。  
ただし、精神障害者である短時間勤務職員であっても、次のいずれかに該当する者については、1人とカウントしている。  
①平成27年6月2日以降に採用された者であること  
②平成27年6月2日より前に採用された者で、同日以後に精神障害者保健福祉手帳を取得した者であること
- 4 各表の②欄の「障害者の数」とは、身体障害者、知的障害者及び精神障害者の計であり、短時間労働者以外の重度身体障害者及び重度知的障害者については法律上、1人を2人に相当するものとしてダブルカウントを行い、重度以外の身体障害者及び知的障害者並びに以下注4に該当しない精神障害者である短時間職員については法律上、1人を0.5人に相当するものとして0.5カウントとしている。
- 5 法定雇用率2.4%が適用される機関とは、都道府県教育委員会及び一定の市町村教育委員会である。
- 6 ( )内は、平成29年6月1日現在の数値である。  
なお、精神障害者は平成18年4月1日から実雇用率に算定されることとなった。
- 7 「独立行政法人等」とは、障害者の雇用の促進等に関する法律施行令別表第2の第1号から第8号まで、「地方独立行政法人等」とは、同令別表第2の第9号及び第10号の法人を指す。

## ◎ 法定雇用率とは

民間企業、国、地方公共団体は、「障害者の雇用の促進等に関する法律」に基づき、それぞれ以下の割合（法定雇用率）に相当する数以上の障害者を雇用しなければならないこととされている。

雇用義務の対象となる障害者は、身体障害者、知的障害者又は精神障害者（精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者に限る。）である（なお、平成30年3月まで、精神障害者は雇用義務の対象ではないが、精神障害者保健福祉手帳保持者を雇用している場合は雇用率に算定することができる）。

- 民間企業 ……
  - 一般の民間企業 …………… 2. 2% [2. 0%]  
(45.5人 [50人] 以上規模の企業)
  - 特殊法人等 …………… 2. 5% [2. 3%]  
〔労働者数40人 [43.5人] 以上規模の特殊法人、  
独立行政法人、国立大学法人等〕
- 国、地方公共団体 …………… 2. 5% [2. 3%]  
(40人 [43.5人] 以上規模の機関)
- 都道府県等の教育委員会 …………… 2. 4% [2. 2%]  
(42人 [45.5人] 以上規模の機関)

※ ( ) 内は、それぞれの割合（法定雇用率）によって1人以上の障害者を雇用しなければならないこととなる企業等の規模である。

※ [ ] 内は、平成30年3月までの値である。

### 【一般民間企業における雇用率設定基準】

$$\text{障害者雇用率} = \frac{\text{身体障害者、知的障害者及び精神障害者である常用労働者の数} + \text{失業している身体障害者、知的障害者及び精神障害者の数}}{\text{常用労働者数} + \text{失業者数}}$$

※ 特殊法人、国及び地方公共団体における障害者雇用率は、一般の民間企業の障害者雇用率を下回らない率をもって定めることとされている。

※ 重度身体障害者又は重度知的障害者については、その1人の雇用をもって、2人の身体障害者又は知的障害者を雇用しているものとしてカウントされる。

※ 重度身体障害者又は重度知的障害者である短時間労働者（1週間の所定労働時間が20時間以上30時間未満の労働者）については、1人分として、重度以外の身体障害者及び知的障害者並びに精神障害者である短時間労働者については、0.5人分としてカウントされる。

※ ただし、精神障害者である短時間勤務職員であっても、次のいずれかに該当する者については、1人分としてカウントされる。

①平成27年6月2日以降に採用された者であること

②平成27年6月2日より前に採用された者で、同日以後に精神障害者保健福祉手帳を取得した者であること

(1) 和歌山県の機関（法定雇用率2.5%）

① 概況

区分	① 機関数	② 法定雇用障害者数の算定の基礎となる職員数	③ 障害者の数						④ 実雇用率 E÷②×100	⑤ 法定雇用率達成機関の数	⑥ 法定雇用率達成機関の割合
			A. 重度身体障害者及び知的障害者	B. 重度身体障害者及び知的障害者である短時間勤務職員	C. 重度以外の身体障害者、知的障害者及び精神障害者(注4)	D. 重度以外の身体障害者及び知的障害者並びに精神障害者である短時間勤務職員(注5)	E. 計 A×2+B+C+D×0.5	F. うち新規雇用分			
計	機関 2 ( 2 )	4,391.0 ( 4,448.5 )	25 ( 23 )	3 ( 3 )	35 ( 28 )	2 ( 8 )	89.0 ( 81.0 )	9.0 ( 1.5 )	2.03 ( 1.82 )	機関 0 ( 0 )	0.0 ( 0.0 )
和歌山県知事部局	機関 1 ( 1 )	3,978.5 ( 4,036.0 )	24 ( 22 )	2 ( 2 )	33 ( 27 )	2 ( 8 )	84.0 ( 77.0 )	9.0 ( 1.5 )	2.11 ( 1.91 )	機関 0 ( 0 )	0.0 ( 0.0 )
和歌山県警察本部	1 ( 1 )	412.5 ( 412.5 )	1 ( 1 )	1 ( 1 )	2 ( 1 )	0 ( 0 )	5.0 ( 4.0 )	0.0 ( 0.0 )	1.21 ( 0.97 )	0 ( 0 )	0.0 ( 0.0 )

注 1(1)①の表と同じ

② 障害種別在職状況

区分	① 障害者の数	② 身体障害者の数						③ 知的障害者の数						④ 精神障害者の数				
		a. 重度身体障害者	b. 重度身体障害者である短時間勤務職員	c. 重度以外の身体障害者	d. 重度以外の身体障害者である短時間勤務職員	e. 計 a×2+b+c+d×0.5	f. うち新規雇用分	a. 重度知的障害者	b. 重度知的障害者である短時間勤務職員	c. 重度以外の知的障害者	d. 重度以外の知的障害者である短時間勤務職員	e. 計 a×2+b+c+d×0.5	f. うち新規雇用分	c. 精神障害者である短時間勤務職員	d. 精神障害者(注5)に該当する職員	e. dのうち、0.5×	f. 計 c+(d-e)×0.5+e	g. うち新規雇用分
計	89.0 ( 81.0 )	25.0 ( 23.0 )	3.0 ( 3.0 )	25.0 ( 25.0 )	2.0 ( 1.0 )	79.0 ( 74.5 )	8.0 ( 1.0 )	0.0 ( 0.0 )	0.0 ( 0.0 )	6.0 ( 0.0 )	0.0 ( 7.0 )	6.0 ( 3.5 )	1.0 ( 0.5 )	4.0 ( 3.0 )	0.0 ( 0.0 )	0.0 ( - )	4.0 ( 3.0 )	0.0 ( 0.0 )
和歌山県知事部局	84.0 ( 77.0 )	24 ( 22 )	2 ( 2 )	24 ( 24 )	2 ( 1 )	75.0 ( 70.5 )	8.0 ( 1.0 )	0 ( 0 )	0 ( 0 )	6 ( 0 )	0 ( 7 )	6.0 ( 3.5 )	1.0 ( 0.5 )	3 ( 3 )	0 ( 0 )	0 ( - )	3.0 ( 3.0 )	0.0 ( 0.0 )
和歌山県警察本部	5.0 ( 4.0 )	1 ( 1 )	1 ( 1 )	1 ( 1 )	0 ( 0 )	4.0 ( 4.0 )	0.0 ( 0.0 )	0 ( 0 )	0 ( 0 )	0 ( 0 )	0 ( 0 )	0.0 ( 0.0 )	0.0 ( 0.0 )	1 ( 0 )	0 ( 0 )	0 ( - )	1.0 ( 0.0 )	0.0 ( 0.0 )

注 1(1)②の表と同じ

## (2) 市町村の機関（法定雇用率2.5%）

### ① 概況

区分	① 機関数	② 法定雇用障害者数の算定の基礎となる職員数	③ 障害者の数						④ 実雇用率 E÷②×100	⑤ 法定雇用率達成機関の数	⑥ 法定雇用率達成機関の割合
			A. 重度身体障害者及び重度知的障害者	B. 重度身体障害者及び重度知的障害者である短時間勤務職員	C. 重度以外の身体障害者及び知的障害者及び精神障害者(注4)	D. 重度以外の身体障害者及び知的障害者並びに精神障害者である短時間勤務職員(注5)	E. 計 A×2+B+C+D×0.5	F. うち新規雇用分			
市町村の機関	機関 <b>44</b> ( 43 )	人 <b>11,253.5</b> ( 11,102.0 )	人 <b>57</b> ( 54 )	人 <b>4</b> ( 3 )	人 <b>121</b> ( 111 )	人 <b>10</b> ( 10 )	人 <b>244.0</b> ( 227.0 )	人 <b>11.0</b> ( 10.5 )	% <b>2.17</b> ( 2.04 )	機関 <b>27</b> ( 28 )	% <b>61.4</b> ( 65.1 )

注 1(2)①の表と同じ

### ② 障害種別在職状況

区分	① 障害者の数	② 身体障害者の数						③ 知的障害者の数						④ 精神障害者の数					
		a. 重度身体障害者	b. 重度身体障害者である短時間勤務職員	c. 重度以外の身体障害者	d. 重度以外の身体障害者である短時間勤務職員	e. 計 a×2+b+c+d×0.5	f. うち新規雇用分	a. 重度知的障害者	b. 重度知的障害者である短時間勤務職員	c. 重度以外の知的障害者	d. 重度以外の知的障害者である短時間勤務職員	e. 計 a×2+b+c+d×0.5	f. うち新規雇用分	c. 精神障害者	d. 精神障害者である短時間勤務職員	e. dのうち、(注5)に該当する職員	f. 計 c+(d-e)×0.5+e	g. うち新規雇用分	
市町村の機関	人 <b>244.0</b> ( 227.0 )	人 <b>56</b> ( 53 )	人 <b>3</b> ( 2 )	人 <b>89</b> ( 88 )	人 <b>2</b> ( 2 )	人 <b>205.0</b> ( 197.0 )	人 <b>7.0</b> ( 9.5 )	人 <b>1</b> ( 1 )	人 <b>1</b> ( 1 )	人 <b>14</b> ( 10 )	人 <b>5</b> ( 4 )	人 <b>19.5</b> ( 15.0 )	人 <b>2.0</b> ( 1.0 )	人 <b>18</b> ( 13 )	人 <b>3</b> ( 4 )	人 <b>0</b> ( - )	人 <b>19.5</b> ( 15.0 )	人 <b>2.0</b> ( 0.0 )	

注 1(2)②の表と同じ

(3) 和歌山県等の教育委員会（法定雇用率2.4%）

① 概況

区分	① 機関数	② 法定雇用障害者 数の算定の基礎と なる職員数	③ 障害者の数					④ 実雇用率 E÷②×100	⑤ 法定雇用率 達成機関の 数	⑥ 法定雇用率 達成機関の 割合	
			A. 重度身体 障害者及び 重度知的障 害者	B. 重度身体 障害者及び 重度知的障 害者であ る短時間勤 務職員	C. 重度以外 の身体障害 者及び知的 障害者(注 4)	D. 重度以外 の身体障害 者及び知的 障害者並 びに精神障 害者である 短時間勤 務職員(注 5)	E. 計 A×2+B+C+D ×0.5				F. うち新規雇 用分
計	機関 3 ( 3 )	6,709.0 ( 6,841.0 )	41 ( 45 )	0 ( 0 )	49 ( 46 )	0 ( 0 )	131.0 ( 136.0 )	13.0 ( 12.0 )	1.95 ( 1.99 )	機関 1 ( 2 )	33.3 ( 66.7 )
和歌山県 教育委員会	機関 1 ( 1 )	6,182.0 ( 6,253.0 )	37 ( 39 )	0 ( 0 )	47 ( 43 )	0 ( 0 )	121.0 ( 121.0 )	13.0 ( 12.0 )	1.96 ( 1.94 )	機関 0 ( 0 )	0.0 ( 0.0 )
市町村教育 委員会	2 ( 2 )	527.0 ( 588.0 )	4 ( 6 )	0 ( 0 )	2 ( 3 )	0 ( 0 )	10.0 ( 15.0 )	0.0 ( 0.0 )	1.90 ( 2.55 )	1 ( 2 )	50.0 ( 100.0 )

注 1(3)①の表と同じ

② 障害種別在職状況

区分	① 障害者の数	② 身体障害者の数					③ 知的障害者の数					④ 精神障害者の数						
		a. 重度身体 障害者	b. 重度身体 障害者であ る短時間勤 務職員	c. 重度以外 の身体障害 者	d. 重度以外 の身体障害 者であ る短時間勤 務職員	e. 計 a×2+b+c+d ×0.5	f. うち新規雇 用分	a. 重度知的 障害者	b. 重度知的 障害者であ る短時間勤 務職員	c. 重度以外 の知的障害 者	d. 重度以外 の知的障害 者であ る短時間勤 務職員	e. 計 a×2+b+c+d ×0.5	f. うち新規雇 用分	c. 精神障害 者	d. 精神障害 者であ る短時間 勤務職員	e. dのうち、 (注5)に該当 する職員	f. 計 c+(d-e)× 0.5+e	g. うち新規 雇用分
計	131.0 ( 136.0 )	41 ( 45 )	0 ( 0 )	36 ( 36 )	0 ( 0 )	118.0 ( 126.0 )	6.0 ( 8.0 )	0 ( 0 )	0 ( 0 )	6 ( 5 )	0 ( 0 )	6.0 ( 5.0 )	4.0 ( 2.0 )	7 ( 5 )	0 ( 0 )	0 ( - )	7.0 ( 5.0 )	3.0 ( 2.0 )
和歌山県 教育委員会	121.0 ( 121.0 )	37 ( 39 )	0 ( 0 )	34 ( 33 )	0 ( 0 )	108.0 ( 111.0 )	6.0 ( 8.0 )	0 ( 0 )	0 ( 0 )	6 ( 5 )	0 ( 0 )	6.0 ( 5.0 )	4.0 ( 2.0 )	7 ( 5 )	0 ( 0 )	0.0 ( - )	7.0 ( 5.0 )	3.0 ( 2.0 )
市町村 教育委員会	10.0 ( 15.0 )	4 ( 6 )	0 ( 0 )	2 ( 3 )	0 ( 0 )	10.0 ( 15.0 )	0.0 ( 0.0 )	0 ( 0 )	0 ( 0 )	0 ( 0 )	0 ( 0 )	0.0 ( 0.0 )	0.0 ( 0.0 )	0 ( 0 )	0 ( 0 )	0 ( - )	0.0 ( 0.0 )	0.0 ( 0.0 )

注 1(3)②の表と同じ

## 2 国立大学法人等における雇用状況(法定雇用率2.5%)

① 概況

区分	① 法人数	② 法定雇用障害者数の算定の基礎となる労働者数	③ 障害者の数					④ 実雇用率 E÷②×100	⑤ 法定雇用率達成法人の数	⑥ 法定雇用率達成法人の割合	
			A. 重度身体障害者及び重度知的障害者	B. 重度身体障害者及び重度知的障害者である短時間労働者	C. 重度以外の身体障害者及び知的障害者	D. 重度以外の身体障害者及び知的障害者並びに精神障害者である短時間労働者	E. 計 A×2+B+C+D×0.5				F. うち新規雇用分
計	法人 2	人 1,570.5	人 6	人 1	人 17	人 1.5	人 31.5	人 6.0	% 2.01	法人 1	% 50.0
	( 2 )	( 1,572.0 )	( 8 )	( 0 )	( 14 )	( 2.0 )	( 31.0 )	( 4.5 )	( 1.97 )	( 1 )	( 50.0 )
国立大学法人等	2	1,570.5	6	1	17	1.5	31.5	6.0	2.01	1	50.0
	( 2 )	( 1,572.0 )	( 8 )	( 0 )	( 14 )	( 2.0 )	( 31.0 )	( 4.5 )	( 1.97 )	( 1 )	( 50.0 )

[ 2①表の注 ]

- 注1 ②欄の「法定雇用障害者数の算定の基礎となる労働者数」とは、常用労働者総数から除外率相当数(身体障害者、知的障害者及び精神障害者が就業することが困難であると認められる職種が相当の割合を占める業種について定められた率を乗じて得た数)を除いた労働者数である。
- 2 ③A欄の「重度身体障害者及び重度知的障害者」については法律上、1人を2人に相当するものとしており、E欄の計を算出するに当たりダブルカウントを行い、D欄の「重度以外の身体障害者及び知的障害者並びに精神障害者である短時間労働者」については法律上、1人を0.5人に相当するものとしており、E欄の計を算出するに当たり0.5カウントとしている。
- ただし、精神障害者である短時間勤務職員であっても、以下注4に該当する者については、1人分としてカウントされる。
- 3 A、C欄は1週間の所定労働時間が30時間以上の労働者であり、B、D欄は1週間の所定労働時間が20時間以上30時間未満の労働者である。
- 4 C欄の精神障害者には、精神障害者である短時間労働者であって、次のいずれかに該当する者を含む。  
①平成27年6月2日以降に採用された者であること。  
②平成27年6月2日より前に採用された者で、同日以後に精神障害者保健福祉手帳を取得した者であること。
- 5 D欄の精神障害者である短時間労働者とは、精神障害者である短時間労働者のうち、注4に該当しない者である。
- 6 F欄の「うち新規雇用分」は、平成28年6月2日から平成29年6月1日までの1年間に新規に雇い入れられた障害者数である。

② 障害種別雇用状況

区分	① 障害者の数	② 身体障害者の数					③ 知的障害者の数					④ 精神障害者の数						
		a. 重度身体障害者	b. 重度身体障害者	c. 重度以外の身体障害者	d. 重度以外の身体障害者である短時間労働者	e. 計 a×2+b+c+d×0.5	f. うち新規雇用分	a. 重度知的障害者	b. 重度知的障害者である短時間労働者	c. 重度以外の知的障害者	d. 重度以外の知的障害者である短時間労働者	e. 計 a×2+b+c+d×0.5	f. うち新規雇用分	c. 精神障害者	d. 精神障害者である短時間労働者	e. dのうち、(注5)に該当する職員	f. 計 c+(d-e)×0.5+e	g. うち新規雇用分
計	人 31.5	人 6	人 1	人 8	人 0	人 21.0	人 2.0	人 0	人 0	人 3	人 0	人 3.0	人 0.0	人 6	人 2	人 1	人 7.5	人 4.0
	( 31.0 )	( 8 )	( 0 )	( 7 )	( 0 )	( 23.0 )	( 3.0 )	( 0 )	( 0 )	( 3 )	( 0 )	( 3.0 )	( 0.0 )	( 4 )	( 2 )	( - )	( 5.0 )	( 1.5 )
国立大学法人等	31.5	6	1	8	0	21.0	2.0	0	0	3	0	3.0	0.0	6	2	1	7.5	4.0
	( 31.0 )	( 8 )	( 0 )	( 7 )	( 0 )	( 23.0 )	( 3.0 )	( 0 )	( 0 )	( 3 )	( 0 )	( 3.0 )	( 0.0 )	( 4 )	( 2 )	( - )	( 5.0 )	( 1.5 )

[ 2②表の注 ]

- 注1 ①欄の「障害者の数」とは②③のe欄及び④f欄の計である。
- 2 ②③a欄の重度障害者については法律上、1人を2人に相当するものとしており、f欄の計を算出するに当たりダブルカウントとしている。
- 3 ②③d欄の重度以外身体障害者及び知的障害者並びに④e欄(注5参照)に該当しない精神障害者である短時間労働者については法律上、1人を0.5人に相当するものとしており、f欄を算出するに当たり0.5カウントとしている。
- 4 ②③のa欄及び④のc欄は1週間の所定労働時間が30時間以上の労働者であり、②③のb、d欄及び④のd欄は1週間の所定労働時間が20時間以上30時間未満の労働者である。
- 5 e欄の職員とは、精神障害者である短時間労働者であって、次のいずれかに該当する者である。  
①平成27年6月2日以降に採用された者であること  
②平成27年6月2日より前に採用された者で、同日以後に精神障害者保健福祉手帳を取得した者であること
- 6 ②③f欄及び④g欄の「うち新規雇用分」は平成29年6月2日から平成30年6月1日までの1年間に新規に雇い入れられた障害者数である。
- 7 ( )内は平成29年6月1日現在の数値である。  
なお、精神障害者は平成18年4月1日から実雇用率に算定されることとなった。

※ 「独立行政法人等」とは、障害者の雇用の促進等に関する法律施行令別表第2の第1号から第8号まで、「地方独立行政法人等」とは、同令別表第2の第9号から第10号までの法人を指す。



## (1) 和歌山県知事部局の状況(法定雇用率2.5%)

	① 法定雇用障害者数の算定の基礎となる職員数	② 障害者の数	③ 実雇用率	④ 不足数	備考
合 計	4,391.0	89.0	2.03	20.0	
和歌山県知事部局	3,978.5	84.0	2.11	15.0	
和歌山県警察本部	412.5	5.0	1.21	5.0	

## (2) 和歌山県等教育委員会の状況(法定雇用率2.4%)

	① 法定雇用障害者数の算定の基礎となる職員数	② 障害者の数	③ 実雇用率	④ 不足数	備考
合 計	6,709.0	131.0	1.95	30.0	
和歌山県	6,182.0	121.0	1.96	27.0	
和歌山市教育委員会	346.0	5.0	1.45	3.0	
海南市教育委員会	181.0	5.0	2.76	0.0	

## (3) 和歌山県内市町村等の状況(法定雇用率2.5%)

	① 法定雇用障害者数の算定の基礎となる職員数	② 障害者の数	③ 実雇用率	④ 不足数	備考
合 計	11,253.5	244.0	2.17	43.0	
和歌山市	1,648.0	44.0	2.67	0.0	
海南市	683.0	21.0	3.07	0.0	
橋本市	632.0	7.0	1.11	8.0	
有田市	320.0	8.0	2.50	0.0	
御坊市	286.0	6.0	2.10	1.0	特例認定 注4
田辺市	857.5	9.0	1.05	12.0	
新宮市	504.0	13.0	2.58	0.0	
紀の川市	518.0	12.0	2.32	0.0	
岩出市	286.0	6.0	2.10	1.0	
紀美野町	133.5	2.5	1.87	0.5	
かつらぎ町	181.5	0.0	0.00	4.0	
九度山町	118.0	0.0	0.00	2.0	
高野町	133.5	3.0	2.25	0.0	
湯浅町	217.5	4.0	1.84	1.0	注5①
広川町	79.5	3.0	3.77	0.0	
有田川町	388.5	9.0	2.32	0.0	
美浜町	75.0	2.0	2.67	0.0	
日高町	73.5	1.0	1.36	0.0	
日高川町	181.0	4.0	2.21	0.0	
由良町	71.0	2.0	2.82	0.0	
みなべ町	131.0	3.0	2.29	0.0	
印南町	82.0	2.0	2.44	0.0	
白浜町	252.0	5.0	1.98	1.0	
上富田町	123.0	3.0	2.44	0.0	
すさみ町	127.5	3.0	2.35	0.0	
串本町	381.0	11.0	2.89	0.0	
那智勝浦町	203.0	5.0	2.46	0.0	
太地町	153.0	3.0	1.96	0.0	
古座川町	73.0	1.0	1.37	0.0	
和歌山市企業局	259.0	6.0	2.32	0.0	
田辺市水道事業	46.0	0.0	0.00	1.0	
国民健康保険野上厚生病院	104.0	7.0	6.73	0.0	
公立那賀病院経営事務組合	172.0	3.0	1.74	1.0	注5②

伊都郡町村及び橋本市老人福祉施設事務組合	61.0	0.0	0.00	1.0	
御坊市外五ヶ町病院経営事務組合	358.0	7.0	1.96	1.0	注5③
御坊日高老人福祉施設事務組合	239.0	11.0	4.60	0.0	
公立紀南病院組合	399.0	7.5	1.88	1.5	
東牟婁郡町村新宮市老人福祉施設事務組合	73.0	1.0	1.37	0.0	
御坊広域行政事務組合	54.0	4.0	7.41	0.0	
海南海草老人福祉施設事務組合	68.5	1.0	1.46	0.0	
紀南地方老人福祉施設事務組合	94.0	1.0	1.06	1.0	
田辺市教育委員会	217.5	0.0	0.00	5.0	
橋本市教育委員会	62.0	1.0	1.61	0.0	
新宮市教育委員会	134.0	2.0	1.49	1.0	注6

(4)国立大学法人等の状況(法定雇用率2.4%)

	① 法定雇用障害者数の算定の基礎となる職員数	② 障害者の数	③ 実雇用率	④ 不足数	備考
合 計	1,570.5	31.5	2.01	9.0	
国立大学法人和歌山大学	398.0	11.5	2.89	0.0	
公立大学法人和歌山県立医科大学	1,172.5	20.0	1.71	9.0	

- 注 1 ①欄の「法定雇用障害者数の算定の基礎となる職員数」とは、職員総数から除外職員数及び除外率相当職員数(旧除外職員が職員総数に占める割合を元に設定した除外率を乗じて得た数)を除いた職員数である。
- 2 ②欄の「障害者の数」とは、身体障害者数、知的障害者数及び精神障害者数の計であり、短時間勤務職員以外の重度身体障害者及び重度知的障害者については、法律上、1人を2人に相当するものとしてダブルカウントしている。  
また、短時間勤務職員である重度身体障害者及び重度知的障害者、短時間職員である精神障害者(平成27年6月2日以降に採用された者または平成27年6月2日より前に採用された者で、同日以後に精神障害者保健福祉手帳を取得した者)については1人を1カウントとしている。  
さらに、重度以外の身体障害者及び知的障害者並びに精神障害者である短時間勤務職員については、法律上、1人を0.5人に相当するものとして0.5カウントとしている。
- 3 ④欄の「不足数」とは、①欄の職員数に法定雇用率を乗じて得た数(1未満の端数切り捨て)から②欄の障害者の数を減じて得た数であり、これが0.0となることをもって法定雇用率達成となる。  
したがって、実雇用率が法定雇用率を下回っていても、不足数が0.0となることがあり、この場合、法定雇用率達成となる。
- 4 注4の機関は、特例認定を受けている。  
特例認定とは、地方公共団体の機関(A)及び当該A機関と人的関係が緊密である等の機関(B)の申請に基づき、厚生労働大臣の認定を受けた場合に、当該B機関に勤務する職員を当該A機関に勤務する職員とみなすものである。

5 注5①湯浅町においては、平成30年12月1日現在において、障害者数5.0人、不足数0.0人となっている。

注5②公立那賀病院経営事務組合においては、平成30年12月3日現在において、障害者数4.0人、不足数0.0人となっている。

注5③御坊市外五ヶ町病院経営事務組合においては、平成30年12月1日現在において、障害者数8.0人、不足数0.0人となっている。

6 平成30年10月22日に公表した「和歌山県の機関、市町村の機関、和歌山県等の教育委員会及び国立大学法人等における平成29年6月1日現在の障害者の任免状況等の再点検結果について」1機関から修正報告があり、修正を行うものである。(11ページ参照)

# 平成29年6月1日現在の障害者の任免状況の再点検結果の訂正(概要)

## 1 市町村の機関における訂正は以下のとおりです。

(1) 平成29年6月1日時点 市町の機関(全体)(\*1)の状況(法定雇用率2.3%)

	①法定雇用障害者数の算定の基礎となる職員数	②障害者の数	③実雇用率	④法定雇用率達成機関の数 / 機関数	⑤達成割合	⑥不足数
再点検後の訂正	11,100.0人	227.0人	2.05%	28 / 43	65.1%	41.0人
再点検後	10,966.0人	227.0人	2.07%	28 / 42	66.7%	38.0人
再点検前	10,443.5人	240.0人	2.30%	33 / 42	78.6%	12.0人

(\*1)市町の機関は、法定雇用率2.3%の市町教育委員会以外の市町教育委員会を含む。

(2) 平成29年6月1日時点 新宮市教育委員会の状況(法定雇用率2.3%)

	①法定雇用障害者数の算定の基礎となる職員数	②障害者の数	③実雇用率	④不足数
再点検後の訂正	136.0	0.0	0.00	3.0
再点検後				
再点検前	43.0	0.0	0.00	0.0

(3) 訂正の経緯等

○和歌山労働局では、「和歌山県の機関、市町村の機関、和歌山県等の教育委員会及び国立大学法人等における平成29年6月1日現在の障害者の任免状況等の再点検結果について」を平成30年10月22日公表したところです。

○その際、法定雇用障害者数の算定の基礎となる職員数の再確認を実施しましたが、今般、上記の職員数に非常勤職員の計上漏れが判明し、再度通報されたので、訂正するものです。

厚生労働省和歌山労働局発表  
平成30年10月22日

厚生労働省 和歌山労働局  
職業安定部 職業対策課  
課 長 三谷 博己  
課 長 補 佐 蔵 裕慶  
地方障害者雇用担当官 神山 高幸  
電話 073-488-1161

## 和歌山県の機関、市町村の機関、和歌山県等の教育委員会及び 国立大学法人等における平成29年6月1日現在の障害者の任免 状況等の再点検結果について

和歌山労働局（局長 まつぶち あつき 松淵 厚樹）では、公的機関などにおける平成29年の「障害者任免状況等」の再点検結果を取りまとめましたので、公表します。

### I. 概要

（和歌山県の機関、市町村の機関、和歌山県等の教育委員会）

- 和歌山県の機関、市町村の機関、和歌山県等の教育委員会は、障害者の雇用の促進等に関する法律（昭和35年法律第123号。以下「法」という。）第40条に基づき、毎年、障害者である職員の任免に関する状況を、障害者任免状況通報書により厚生労働大臣に対して通報しなければならないこととされています。
- この通報に基づいて集計された、平成29年6月1日現在の障害者である職員の任免に関する状況については、民間企業における障害者の雇用の状況と併せ、「平成29年 障害者雇用状況の集計結果」として、平成29年12月13日に公表していたところです。この度、和歌山県の機関、市町村の機関、和歌山県等の教育委員会において、通報内容の再点検を行い、各機関から改めて数値が通報されました。
- 再点検の結果、
  - （1）和歌山県の機関の障害者数は103.0人から22.0人減少して81.0人と、実雇用率は2.32%から1.82%と、不足数0.0人から20.0人となりました。
  - （2）市町村の機関の障害者数は240.0人から13.0人減少して227.0人と、実雇用率は2.30%から2.07%と、不足数は12.0人から38.0人となりました。
  - （3）和歌山県等の教育委員会の障害者数は137.0人から1.0人減少して136.0人と、実雇用率は2.00%から1.99%と、不足数は15.0人から16.0人となりました。

(国立大学法人等)

- 国立大学法人等は、障害者の雇用の促進等に関する法律（昭和 35 年法律第 123 号。以下「法」という。）第 43 条に基づき、毎年、障害者である労働者の雇用に関する状況を、障害者雇用状況報告書により厚生労働大臣に対して報告しなければならないこととされています。
- この報告に基づいて集計された、平成 29 年 6 月 1 日現在の障害者の雇用の状況についても、「平成 29 年 障害者雇用状況の集計結果」の中で、平成 29 年 12 月 13 日に公表していたところです。この度、国立大学法人等において、報告内容の再点検を行い、各法人から改めて数値が報告されました。
- 再点検の結果、国立大学法人等の障害者数は 40.0 人から 9.0 人減少して 31.0 人と、実雇用率は 2.55%から 1.97%と、不足数 0.0 人から 9.0 人となりました。

## Ⅱ. 総括表

○ 和歌山県の地方公共団体及び国立大学法人等における再点検に基づき通報された数値に基づく集計結果は以下のとおりです。

平成 29 年 6 月 1 日時点 地方公共団体及び国立大学法人等の集計値（再点検後）

### 1 地方公共団体における在職状況

#### (1) 和歌山県の機関(法定雇用率 2.3%)

( ) 内は再点検前の数値

	①法定雇用障害者数の算定の基礎となる職員数	②障害者の数	③実雇用率	④法定雇用率達成機関の数 / 機関数	⑤達成割合	⑥不足数
計	4,448.5 人 ( 4,448.5 人)	81.0 人 ( 103.0 人)	1.82 % (2.32 %)	0 / 2 ( 2 / 2 )	0.0% ( 100.0%)	20.0 人 ( 0.0 人)
和歌山県知事部局	4,036.0 人 ( 4,036.0 人)	77.0 人 ( 93.0 人)	1.91 % (2.30 %)	0 / 1 ( 1 / 1 )	0.0% ( 100.0%)	15.0 人 ( 0.0 人)
和歌山県警察本部	412.5 人 ( 412.5 人)	4.0 人 ( 10.0 人)	0.97 % (2.42 %)	0 / 1 ( 1 / 1 )	0.0% ( 100.0%)	5.0 人 ( 0.0 人)

#### (2) 和歌山県等の教育委員会(法定雇用率 2.2%)

( ) 内は再点検前の数値

	①法定雇用障害者数の算定の基礎となる職員数	②障害者の数	③実雇用率	④法定雇用率達成機関の数 / 機関数	⑤達成割合	⑥不足数
計	6,841.0 人 ( 6,841.0 人)	136.0 人 ( 137.0 人)	1.99 % (2.00%)	2 / 3 ( 2 / 3 )	66.7% ( 66.7%)	16.0 人 ( 15.0 人)
和歌山県教育委員会	6,253.0 人 ( 6,253.0 人)	121.0 人 ( 122.0 人)	1.94 % (1.95%)	0 / 1 ( 0 / 1 )	0.0% ( 0.0%)	16.0 人 ( 15.0 人)
市町村教育委員会(*1)	588.0 人 ( 588.0 人)	15.0 人 ( 15.0 人)	2.55 % (2.55%)	2 / 2 ( 2 / 2 )	100.0% ( 100.0%)	0.0 人 ( 0.0 人)

(\*1) 市町村教育委員会のうち、中学校、高等学校及び中等学校に置かれる教諭、助教諭又は講師の任命権者であるもの。

#### (3) 市町村の機関(法定雇用率 2.3%)

( ) 内は再点検前の数値

	①法定雇用障害者数の算定の基礎となる職員数	②障害者の数	③実雇用率	④法定雇用率達成機関の数 / 機関数	⑤達成割合	⑥不足数
市町村の機関	10,966.0 人 ( 10,443.5 人)	227.0 人 ( 240.0 人)	2.07 % (2.30%)	28 / 42 ( 33 / 42)	66.7% ( 78.6%)	38.0 人 (12.0 人)

### 2 国立大学法人等における雇用状況(法定雇用率 2.3%)

( ) 内は再点検前の数値

	①法定雇用障害者数の算定の基礎となる労働者数	②障害者の数	③実雇用率	④法定雇用率達成機関の数 / 機関数	⑤達成割合	⑥不足数
計	1,572.0 人 ( 1,571.0 人)	31.0 人 ( 40.0 人)	1.97 % (2.55%)	1 / 2 ( 2 / 2 )	50.0% ( 100.0%)	9.0 人 ( 0.0 人)
国立大学法人和歌山大学	413.5 人 ( 413.5 人)	14.0 人 ( 14.0 人)	3.39 % (3.39%)	1 / 1 ( 1 / 1 )	100.0% ( 100.0%)	0.0 人 ( 0.0 人)
公立大学法人和歌山県立医科大学	1,158.5 人 ( 1,157.5 人)	17.0 人 ( 26.0 人)	1.47 % (2.25%)	0 / 1 ( 1 / 1 )	0.0% ( 100.0%)	9.0 人 ( 0.0 人)

注 各表の②欄の「障害者の数」とは、身体障害者、知的障害者及び精神障害者の計であり、短時間労働者以外の重度身体障害者及び重度知的障害者については法律上、1人を2人に相当するものとしてダブルカウントを行い、重度以外の身体障害者及び知的障害者並びに精神障害者である短時間労働者については法律上、1人を0.5人に相当するものとして0.5カウントとしている。

### Ⅲ. H29. 6. 1 現在の障害者任免状況通報に係る再点検結果（点検前後の概要）

#### 1 和歌山県知事部局（障害者雇用率 2.3%）

	実雇用率の増減(%)	障害者数の増減（人）	不足数の増減（人）
和歌山県	2.30 ⇒ 1.91	93.0 ⇒ 77.0 （-16.0）	0.0 ⇒ 15.0

#### 2 その他の和歌山県の機関（障害者雇用率 2.3%）

	実雇用率の増減(%)	障害者数の増減（人）	不足数の増減（人）
和歌山県警察本部	2.42 ⇒ 0.97	10.0 ⇒ 4.0 （-6.0）	0.0 ⇒ 5.0

#### 3 和歌山県教育委員会（障害者雇用率 2.2%）

	実雇用率の増減(%)	障害者数の増減（人）	不足数の増減（人）
和歌山県教育委員会	1.95 ⇒ 1.94	122.0 ⇒ 121.0 （-1.0）	15.0 ⇒ 16.0

#### 4 和歌山県内市町村（障害者雇用率 2.3%）

	実雇用率の増減(%)	障害者数の増減（人）	不足数の増減（人）
計	2.30 ⇒ 2.07	240.0 ⇒ 227.0 （-13.0）	12.0 ⇒ 38.0
和歌山市	2.56 ⇒ 2.56	44.0 ⇒ 44.0 （±0.0）	0.0 ⇒ 0.0
海南市	2.84 ⇒ 2.84	19.0 ⇒ 19.0 （±0.0）	0.0 ⇒ 0.0
橋本市	2.21 ⇒ 1.10	14.0 ⇒ 7.0 （-7.0）	0.0 ⇒ 7.0
有田市	2.22 ⇒ 2.22	7.0 ⇒ 7.0 （±0.0）	0.0 ⇒ 0.0
御坊市	2.48 ⇒ 2.48	7.0 ⇒ 7.0 （±0.0）	0.0 ⇒ 0.0
田辺市	2.13 ⇒ 0.81	12.0 ⇒ 7.0 （-5.0）	0.0 ⇒ 12.0
新宮市	2.51 ⇒ 2.51	12.0 ⇒ 12.0 （±0.0）	0.0 ⇒ 0.0
紀の川市	1.92 ⇒ 1.92	10.0 ⇒ 10.0 （±0.0）	1.0 ⇒ 1.0
岩出市	2.06 ⇒ 2.06	6.0 ⇒ 6.0 （±0.0）	0.0 ⇒ 0.0
紀美野町	0.36 ⇒ 0.36	0.5 ⇒ 0.5 （±0.0）	2.5 ⇒ 2.5
かつらぎ町	1.94 ⇒ 0.51	4.0 ⇒ 1.0 （-3.0）	0.0 ⇒ 3.0
九度山町	1.72 ⇒ 0.00	2.0 ⇒ 0.0 （-2.0）	0.0 ⇒ 2.0
高野町	2.22 ⇒ 2.22	3.0 ⇒ 3.0 （±0.0）	0.0 ⇒ 0.0
湯浅町	1.94 ⇒ 1.94	4.0 ⇒ 4.0 （±0.0）	0.0 ⇒ 0.0
広川町	3.80 ⇒ 3.80	3.0 ⇒ 3.0 （±0.0）	0.0 ⇒ 0.0
有田川町	2.08 ⇒ 2.08	8.0 ⇒ 8.0 （±0.0）	0.0 ⇒ 0.0
美浜町	1.33 ⇒ 1.33	1.0 ⇒ 1.0 （±0.0）	0.0 ⇒ 0.0
日高町	1.30 ⇒ 1.30	1.0 ⇒ 1.0 （±0.0）	0.0 ⇒ 0.0
日高川町	2.13 ⇒ 2.13	4.0 ⇒ 4.0 （±0.0）	0.0 ⇒ 0.0
由良町	2.61 ⇒ 2.61	2.0 ⇒ 2.0 （±0.0）	0.0 ⇒ 0.0
みなべ町	2.33 ⇒ 2.33	3.0 ⇒ 3.0 （±0.0）	0.0 ⇒ 0.0
印南町	2.41 ⇒ 2.41	2.0 ⇒ 2.0 （±0.0）	0.0 ⇒ 0.0
白浜町	1.61 ⇒ 1.61	4.0 ⇒ 4.0 （±0.0）	1.0 ⇒ 1.0
上富田町	2.59 ⇒ 2.59	3.0 ⇒ 3.0 （±0.0）	0.0 ⇒ 0.0
すさみ町	3.27 ⇒ 3.27	4.0 ⇒ 4.0 （±0.0）	0.0 ⇒ 0.0
串本町	2.75 ⇒ 2.91	7.0 ⇒ 11.0 （+4.0）	0.0 ⇒ 0.0
那智勝浦町	2.55 ⇒ 2.55	5.0 ⇒ 5.0 （±0.0）	0.0 ⇒ 0.0
太地町	1.95 ⇒ 1.95	2.0 ⇒ 2.0 （±0.0）	0.0 ⇒ 0.0

古座川町	0.00 ⇒ 0.00	0.0 ⇒ 0.0 (±0.0)	1.0 ⇒ 1.0
和歌山市企業局	2.42 ⇒ 2.42	4.0 ⇒ 4.0 (±0.0)	0.0 ⇒ 0.0
国民健康保険野上厚生 病院組合	6.80 ⇒ 6.80	7.0 ⇒ 7.0 (±0.0)	0.0 ⇒ 0.0
公立那賀病院経営事務 組合	1.45 ⇒ 1.45	2.5 ⇒ 2.5 (±0.0)	0.5 ⇒ 0.5
伊都郡町村及び橋本市 老人福祉施設事務組合	0.00 ⇒ 0.00	0.0 ⇒ 0.0 (±0.0)	1.0 ⇒ 1.0
御坊市外五ヶ町病院経 営事務組合	1.54 ⇒ 1.54	6.0 ⇒ 6.0 (±0.0)	2.0 ⇒ 2.0
御坊日高老人福祉施設 事務組合	4.62 ⇒ 4.62	11.0 ⇒ 11.0 (±0.0)	0.0 ⇒ 0.0
公立紀南病院組合	1.53 ⇒ 1.53	6.0 ⇒ 6.0 (±0.0)	2.0 ⇒ 2.0
東牟婁郡町村新宮市老 人福祉施設事務組合	1.23 ⇒ 1.23	1.0 ⇒ 1.0 (±0.0)	0.0 ⇒ 0.0
御坊広域行政事務組合	7.55 ⇒ 7.55	4.0 ⇒ 4.0 (±0.0)	0.0 ⇒ 0.0
海南海草老人福祉施設事 務組合	1.46 ⇒ 1.46	1.0 ⇒ 1.0 (±0.0)	0.0 ⇒ 0.0
紀南地方老人福祉施設 組合	1.09 ⇒ 1.09	1.0 ⇒ 1.0 (±0.0)	1.0 ⇒ 1.0
橋本市教育委員会	1.45 ⇒ 1.52	1.0 ⇒ 1.0 (±0.0)	0.0 ⇒ 0.0
田辺市教育委員会	2.11 ⇒ 0.95	2.0 ⇒ 2.0 (±0.0)	0.0 ⇒ 2.0

#### 5 和歌山県内市町村教育委員会（障害者雇用率 2.2%のもののみ）

	実雇用率の増減(%)	障害者数の増減(人)	不足数の増減(人)
計	2.55 ⇒ 2.55	15.0 ⇒ 15.0 (±0.0)	0.0 ⇒ 0.0
和歌山市教育委員会	2.36 ⇒ 2.36	9.0 ⇒ 9.0 (±0.0)	0.0 ⇒ 0.0
海南市教育委員会	2.91 ⇒ 2.91	6.0 ⇒ 6.0 (±0.0)	0.0 ⇒ 0.0

#### 6 国立大学法人等（障害者雇用率 2.3%）

	実雇用率の増減(%)	障害者数の増減(人)	不足数の増減(人)
計	2.55 ⇒ 1.97	40.0 ⇒ 31.0 (-9.0)	0.0 ⇒ 9.0
和歌山大学	3.39 ⇒ 3.39	14.0 ⇒ 14.0 (±0.0)	0.0 ⇒ 0.0
和歌山県立医科大学	2.25 ⇒ 1.47	26.0 ⇒ 17.0 (-9.0)	0.0 ⇒ 9.0



## 再点検結果の詳細

参考1

1 和歌山県知事部局における再点検に基づき通報された数値は以下のとおりです。

(1) 平成29年6月1日時点 和歌山県の機関の状況 (法定雇用率2.3%) (再点検後)

	① 法定雇用障害者数の算定の基礎となる職員数	② 障害者の数	③ 実雇用率	④ 不足数	備考
和歌山県	4,036.0	77.0	1.91	15.0	

(2) 平成29年6月1日時点 和歌山県の機関の状況 (法定雇用率2.3%) (再点検前)

	① 法定雇用障害者数の算定の基礎となる職員数	② 障害者の数	③ 実雇用率	④ 不足数	備考
和歌山県	4,036.0	93.0	2.30	0.0	

2 その他の和歌山県の機関における再点検に基づき通報された数値は以下のとおりです。

(1) 平成29年6月1日時点 その他の和歌山県の機関の状況 (法定雇用率2.3%) (再点検後)

	① 法定雇用障害者数の算定の基礎となる職員数	② 障害者の数	③ 実雇用率	④ 不足数	備考
<b>計</b>	<b>412.5</b>	<b>4.0</b>	<b>0.97</b>	<b>5.0</b>	
和歌山県警察本部	412.5	4.0	0.97	5.0	

(2) 平成29年6月1日時点 その他の和歌山県の機関の状況 (法定雇用率2.3%) (再点検前)

	① 法定雇用障害者数の算定の基礎となる職員数	② 障害者の数	③ 実雇用率	④ 不足数	備考
<b>計</b>	<b>412.5</b>	<b>10.0</b>	<b>2.42</b>	<b>0.0</b>	
和歌山県警察本部	412.5	10.0	2.42	0.0	

3 和歌山県教育委員会における再点検に基づき通報された数値は以下のとおりです。

(1) 平成29年6月1日時点 和歌山県教育委員会の状況 (法定雇用率2.2%) (再点検後)

	① 法定雇用障害者数の算定の基礎となる職員数	② 障害者の数	③ 実雇用率	④ 不足数	備考
和歌山県教育委員会	6,253.0	121.0	1.94	16.0	

(2) 平成29年6月1日時点 和歌山県教育委員会の状況 (法定雇用率2.2%) (再点検前)

	① 法定雇用障害者数の算定の基礎となる職員数	② 障害者の数	③ 実雇用率	④ 不足数	備考
和歌山県教育委員会	6,253.0	122.0	1.95	15.0	

4 和歌山県内市町村(※)における再点検に基づき報告された数値は以下のとおりです。

(※)市町村の機関は下記5の市町村教育委員会以外の市町村教育委員会を含む。

(1) 平成29年6月1日時点 和歌山県内市町村の状況 (法定雇用率2.3%) (再点検後)

	① 法定雇用障害者数の算定の基礎となる職員数	② 障害者の数	③ 実雇用率	④ 不足数	備考
<b>計</b>	<b>10,966.0</b>	<b>227.0</b>	<b>2.07</b>	<b>38.0</b>	
和歌山市	1,716.0	44.0	2.56	0.0	
海南市	668.0	19.0	2.84	0.0	
橋本市	634.0	7.0	1.10	7.0	
有田市	316.0	7.0	2.22	0.0	
御坊市	282.0	7.0	2.48	0.0	特例認定
田辺市	860.5	7.0	0.81	12.0	
新宮市	478.0	12.0	2.51	0.0	
紀の川市	521.0	10.0	1.92	1.0	
岩出市	291.0	6.0	2.06	0.0	
紀美野町	137.0	0.5	0.36	2.5	
かつらぎ町	196.0	1.0	0.51	3.0	
九度山町	116.5	0.0	0.00	2.0	

高野町	135.0	3.0	2.22	0.0	
湯浅町	206.5	4.0	1.94	0.0	
広川町	79.0	3.0	3.80	0.0	
有田川町	384.0	8.0	2.08	0.0	
美浜町	75.0	1.0	1.33	0.0	
日高町	77.0	1.0	1.30	0.0	
日高川町	187.5	4.0	2.13	0.0	
由良町	76.5	2.0	2.61	0.0	
みなべ町	129.0	3.0	2.33	0.0	
印南町	83.0	2.0	2.41	0.0	
白浜町	248.0	4.0	1.61	1.0	
上富田町	116.0	3.0	2.59	0.0	
すさみ町	122.5	4.0	3.27	0.0	
串本町	378.5	11.0	2.91	0.0	
那智勝浦町	196.0	5.0	2.55	0.0	
太地町	102.5	2.0	1.95	0.0	
古座川町	74.0	0.0	0.00	1.0	
和歌山市企業局	165.0	4.0	2.42	0.0	
国民健康保険野上厚生病院組合	103.0	7.0	6.80	0.0	
公立那賀病院経営事務組合	173.0	2.5	1.45	0.5	
伊都郡町村及び橋本市老人福祉施設事務組合	51.0	0.0	0.00	1.0	
御坊市外五ヶ町病院経営事務組合	389.0	6.0	1.54	2.0	
御坊日高老人福祉施設事務組合	238.0	11.0	4.62	0.0	
公立紀南病院組合	391.0	6.0	1.53	2.0	
東牟婁郡町村新宮市老人福祉施設事務組合	81.0	1.0	1.23	0.0	
御坊市広域行政事務組合	53.0	4.0	7.55	0.0	
海南海草老人福祉施設事務組合	68.5	1.0	1.46	0.0	
紀南地方老人福祉施設組合	92.0	1.0	1.09	1.0	
橋本市教育委員会	66.0	1.0	1.52	0.0	
田辺市教育委員会	209.5	2.0	0.95	2.0	

(2) 平成29年6月1日時点 和歌山県内市町村の状況 (法定雇用率2.3%) (再点検前)

	① 法定雇用障害者数の算定の基礎となる職員数	② 障害者の数	③ 実雇用率	④ 不足数	備考
<b>計</b>	<b>10,443.5</b>	<b>240.0</b>	<b>2.30</b>	<b>12.0</b>	
和歌山市	1,716.0	44.0	2.56	0.0	
海南市	668.0	19.0	2.84	0.0	
橋本市	634.0	14.0	2.21	0.0	
有田市	316.0	7.0	2.22	0.0	
御坊市	282.0	7.0	2.48	0.0	特例認定
田辺市	563.0	12.0	2.13	0.0	
新宮市	478.0	12.0	2.51	0.0	
紀の川市	521.0	10.0	1.92	1.0	
岩出市	291.0	6.0	2.06	0.0	
紀美野町	137.0	0.5	0.36	2.5	
かつらぎ町	206.0	4.0	1.94	0.0	
九度山町	116.5	2.0	1.72	0.0	
高野町	135.0	3.0	2.22	0.0	
湯浅町	206.5	4.0	1.94	0.0	
広川町	79.0	3.0	3.80	0.0	

有田川町	384.0	8.0	2.08	0.0	
美浜町	75.0	1.0	1.33	0.0	
日高町	77.0	1.0	1.30	0.0	
日高川町	187.5	4.0	2.13	0.0	
由良町	76.5	2.0	2.61	0.0	
みなべ町	129.0	3.0	2.33	0.0	
印南町	83.0	2.0	2.41	0.0	
白浜町	248.0	4.0	1.61	1.0	
上富田町	116.0	3.0	2.59	0.0	
すさみ町	122.5	4.0	3.27	0.0	
串本町	255.0	7.0	2.75	0.0	
那智勝浦町	196.0	5.0	2.55	0.0	
太地町	102.5	2.0	1.95	0.0	
古座川町	74.0	0.0	0.00	1.0	
和歌山市企業局	165.0	4.0	2.42	0.0	
国民健康保険野上厚生病院組合	103.0	7.0	6.80	0.0	
公立那賀病院経営事務組合	173.0	2.5	1.45	0.5	
伊都郡町村及び橋本市老人福祉施設事務組合	51.0	0.0	0.00	1.0	
御坊市外五ヶ町病院経営事務組合	389.0	6.0	1.54	2.0	
御坊日高老人福祉施設事務組合	238.0	11.0	4.62	0.0	
公立紀南病院組合	391.0	6.0	1.53	2.0	
東牟婁郡町村新宮市老人福祉施設事務組合	81.0	1.0	1.23	0.0	
御坊市広域行政事務組合	53.0	4.0	7.55	0.0	
海南海草老人福祉施設事務組合	68.5	1.0	1.46	0.0	
紀南地方老人福祉施設組合	92.0	1.0	1.09	1.0	
橋本市教育委員会	69.0	1.0	1.45	0.0	
田辺市教育委員会	95.0	2.0	2.11	0.0	

5 和歌山県内市町村教育委員会(※)における再点検に基づき報告された数値は以下のとおりです。

(※)市町村教育委員会のうち、中学校、高等学校及び中等学校に置かれる教諭、助教諭又は講師の任命権者であるもの。

(1) 平成29年6月1日時点 和歌山県内市町村教育委員会の状況(法定雇用率2.2%) (再点検後)

	① 法定雇用障害者数の算定の基礎となる職員数	② 障害者の数	③ 実雇用率	④ 不足数	備考
計	588.0	15.0	2.55	0.0	
和歌山市教育委員会	382.0	9.0	2.36	0.0	
海南市教育委員会	206.0	6.0	2.91	0.0	

(2) 平成29年6月1日時点 県内市町村の教育委員会の状況(法定雇用率2.2%) (再点検前)

	① 法定雇用障害者数の算定の基礎となる職員数	② 障害者の数	③ 実雇用率	④ 不足数	備考
計	588.0	15.0	2.55	0.0	
和歌山市教育委員会	382.0	9.0	2.36	0.0	
海南市教育委員会	206.0	6.0	2.91	0.0	

6 国立大学法人等における再点検に基づき報告された数値は以下のとおりです。

(1) 平成 29 年 6 月 1 日時点 国立大学法人等の状況 (法定雇用率 2.3%) (再点検後)

	① 法定雇用障害者数の算定の基礎となる職員数	② 障害者の数	③ 実雇用率	④ 不足数	備考
国立大学法人等合計	1,572.0	31.0	1.97	9.0	
和歌山大学	413.5	14.0	3.39	0.0	
和歌山県立医科大学	1,158.5	17.0	1.47	9.0	

(2) 平成 29 年 6 月 1 日時点 国立大学法人等の状況 (法定雇用率 2.3%) (再点検前)

	① 法定雇用障害者数の算定の基礎となる職員数	② 障害者の数	③ 実雇用率	④ 不足数	備考
国立大学法人等合計	1,571.0	40.0	2.55	0.0	
和歌山大学	413.5	14.0	3.39	0.0	
和歌山県立医科大学	1,157.5	26.0	2.25	0.0	

【再点検結果の詳細】の各表に関する注記】

- 注1 各表(「国立大学法人等」の表を除く。)における、①欄の「法定雇用障害者数の算定の基礎となる職員数」とは、職員総数から除外職員数及び除外率相当職員数(旧除外職員が職員総数に占める割合を元に設定した除外率を乗じて得た数)を除いた職員数である。
- 注2 「国立大学法人等」の表における、①欄の「法定雇用障害者数の算定の基礎となる労働者数」とは、常用労働者総数から除外率相当数(身体障害者及び知的障害者が就業することが困難であると認められる職種が相当の割合を占める業種について定められた率を乗じて得た数)を除いた労働者数である。
- 注3 ②欄の「障害者の数」とは、身体障害者数、知的障害者数及び精神障害者数の計であり、短時間勤務職員以外の重度身体障害者及び重度知的障害者については、法律上、1人を2人に相当するものとしてダブルカウントを行い、重度以外の身体障害者及び知的障害者並びに精神障害者である短時間勤務職員については、法律上、1人を0.5人に相当するものとして0.5カウントとしている。
- 注4 ②欄の「障害者の数」とは、身体障害者数、知的障害者数及び精神障害者数の計であり、短時間勤務職員以外の重度身体障害者及び重度知的障害者については、法律上、1人を2人に相当するものとしてダブルカウントを行い、重度以外の身体障害者及び知的障害者並びに精神障害者である短時間勤務職員については、法律上、1人を0.5人に相当するものとして0.5カウントとしている。
- 注5 ④欄の「不足数」とは、①欄の職員数に法定雇用率を乗じて得た数(1未満の端数切り捨て)から②欄の障害者の数を減じて得た数であり、これが0.0となることをもって法定雇用率達成となる。  
したがって、実雇用率が法定雇用率を下回っていても、不足数が0.0となることがあり、この場合、法定雇用率達成となる。
- 注6 「備考」欄の市町村の「特例認定」とは、地方公共団体の機関(A:御坊市)及び当該A機関と人的関係が緊密である等の機関(B:御坊市教育委員会)の申請に基づき、厚生労働大臣の認定により、当該機関(B)に勤務する職員を当該機関(A)に勤務する職員とみなす特例が適用されているものである。御坊市は特例認定(平成28年8月26日)を受けている。

## ◎ 法定雇用率とは

民間企業、国、地方公共団体は、「障害者の雇用の促進等に関する法律」に基づき、それぞれ以下の割合（法定雇用率）に相当する数以上の障害者を雇用しなければならないこととされている。

雇用義務の対象となる障害者は、身体障害者、知的障害者又は精神障害者（精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者に限る。）である（なお、平成30年3月まで、精神障害者は雇用義務の対象ではないが、精神障害者保健福祉手帳保持者を雇用している場合は雇用率に算定することができる）。

- |                  |   |  |
|------------------|---|--|
| ○ 民間企業 ……        | { | 一般の民間企業 …………… 2. 2% [2. 0%]<br>（45.5人 [50人] 以上規模の企業）<br>特殊法人等 …………… 2. 5% [2. 3%]<br>[労働者数40人 [43.5人] 以上規模の特殊法人、<br>独立行政法人、国立大学法人等 |
| ○ 国、地方公共団体 ……    |   | 2. 5% [2. 3%]<br>（40人 [43.5人] 以上規模の機関）   |
| ○ 都道府県等の教育委員会 …… |   | 2. 4% [2. 2%]<br>（42人 [45.5] 以上規模の機関）  |

※（ ）内は、それぞれの割合（法定雇用率）によって1人以上の障害者を雇用しなければならないこととなる企業等の規模である。

※〔 〕内は、平成30年3月までの値である。

### 【一般民間企業における雇用率設定基準】

$$\text{障害者雇用率} = \frac{\text{身体障害者、知的障害者及び精神障害者である常用労働者の数} + \text{失業している身体障害者、知的障害者及び精神障害者の数}}{\text{常用労働者数} + \text{失業者数}}$$

※ 特殊法人、国及び地方公共団体における障害者雇用率は、一般の民間企業の障害者雇用率を下回らない率をもって定めることとされている。

※ 重度身体障害者又は重度知的障害者については、その1人の雇用をもって、2人の身体障害者又は知的障害者を雇用しているものとしてカウントされる。

※ 重度身体障害者又は重度知的障害者である短時間労働者（1週間の所定労働時間が20時間以上30時間未満の労働者）については、1人分として、重度以外の身体障害者及び知的障害者並びに精神障害者である短時間労働者については、0.5人分としてカウントされる。

## 障害者雇用義務制度及び障害者である職員の任免状況に関する通報について

### (制度の概要)

- 障害者の雇用の促進等に関する法律（昭和 35 年法律第 123 号。以下「法」という。）は、国や地方公共団体、独立行政法人等、民間企業に対して、従業員の法定雇用率以上の障害者の雇用に義務付けています。

#### ※法定雇用率

国、地方公共団体	2.5%（平成 30 年 4 月から。平成 29 年 6 月 1 日時点は 2.3%）
都道府県等教育委員会	2.4%（平成 30 年 4 月から。平成 29 年 6 月 1 日時点は 2.2%）
独立行政法人等	2.5%（平成 30 年 4 月から。平成 29 年 6 月 1 日時点は 2.3%）
民間企業	2.2%（平成 30 年 4 月から。平成 29 年 6 月 1 日時点は 2.0%）

- 地方公共団体の機関は、法第 40 条に基づき、毎年、障害者である職員の任免に関する状況を、厚生労働大臣（市町村にあっては都道府県労働局長）に通報しなければならないこととされており、同法施行令第 8 条に基づき、毎年 6 月 1 日現在の状況を通報することとされています。

また、独立行政法人等は、法第 43 条第 7 項に基づき、毎年、障害者である労働者の雇用に関する状況を、公共職業安定所長に報告しなければならないこととされており、同法施行規則第 8 条に基づき、毎年 6 月 1 日現在の状況を報告することとされています。

### (制度の対象となる障害者の範囲)

- 障害者雇用義務制度の対象となる障害者は、法第 37 条第 2 項において、身体障害者、知的障害者又は精神障害者（精神障害者保健福祉手帳の交付を受けているものに限る）とされています。
- 身体障害者については、法第 2 条第 2 号において、「身体障害がある者であつて別表に掲げる障害があるものをいう。」とされています。

障害者の雇用の促進等に関する法律（昭和 35 年法律第 123 号）（抄）

別表 障害の範囲（第二条、第四十八条関係）

#### 一 次に掲げる視覚障害で永続するもの

- イ 両眼の視力（万国式試視力表によつて測つたものをいい、屈折異状がある者については、矯正視力について測つたものをいう。以下同じ。）がそれぞれ〇・一以下のもの
- ロ 一眼の視力が〇・〇二以下、他眼の視力が〇・六以下のもの
- ハ 両眼の視野がそれぞれ一〇度以内のもの
- ニ 両眼による視野の二分の一以上が欠けているもの

#### 二 次に掲げる聴覚又は平衡機能の障害で永続するもの

- イ 両耳の聴力レベルがそれぞれ七〇デシベル以上のもの
- ロ 一耳の聴力レベルが九〇デシベル以上、他耳の聴力レベルが五〇デシベル以上のもの
- ハ 両耳による普通話声の最良の語音明瞭度が五〇パーセント以下のもの
- ニ 平衡機能の著しい障害

#### 三 次に掲げる音声機能、言語機能又はそしやく機能の障害

- イ 音声機能、言語機能又はそしやく機能の喪失
- ロ 音声機能、言語機能又はそしやく機能の著しい障害で、永続するもの

#### 四 次に掲げる肢体不自由

- イ 一上肢、一下肢又は体幹の機能の著しい障害で永続するもの
- ロ 一上肢のおや指を指骨間関節以上で欠くもの又はひとさし指を含めて一上肢の二指以上をそれぞれ第一指骨間関節以上で欠くもの
- ハ 一下肢をリスフラン関節以上で欠くもの
- ニ 一上肢のおや指の機能の著しい障害又はひとさし指を含めて一上肢の三指以上の機能の著しい障害で、永続するもの
- ホ 両下肢のすべての指を欠くもの
- ヘ イからホまでに掲げるもののほか、その程度がイからホまでに掲げる障害の程度以上であると認められる障害

#### 五 心臓、じん臓又は呼吸器の機能の障害その他政令で定める障害（注：政令第 27 条により、ぼうこう又は直腸の機能の障害、小腸の機能の障害、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害、肝臓の機能の障害が該当するものとされている）で、永続し、かつ、日常生活が著しい制限を受ける程度であると認められるもの

- 身体障害者について、「別表に掲げる障害があるもの」であることの確認は、身体障害者手帳によることが原則となりますが、身体障害者手帳を所持しない者について、当分の間、身体障害者福祉法による指定医や産業医による診断書・意見書によることも差し支えないものとしています。

- 知的障害者については、法第2条第4号において、「知的障害がある者であつて厚生労働省令で定めるものをいう。」とされています。法施行規則（昭和51年労働省令第38号。以下「施行規則」という。）第1条の2において、「法第2条第4号の厚生労働省令で定める知的障害がある者（以下「知的障害者」という。）は、児童相談所、知的障害者福祉法（昭和35年法律第37号）第9条第6項に規定する知的障害者更生相談所、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号。以下「精神保健福祉法」という。）第6条第1項に規定する精神保健福祉センター、精神保健指定医又は法第19条の障害者職業センター（次条において「知的障害者判定機関」という。）により知的障害があると判定された者とする。」とされています。

- 精神障害者については、法第37条第2項において、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条第2項の規定により精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者に限るとされています。

（障害者の範囲の通知）

- これらの取扱いについては、障害者雇用義務制度の創設に伴って昭和51年10月1日付で労働省職業安定局長から各都道府県知事あて発出した「改正身体障害者雇用促進法の施行について」に記載されています。

「改正身体障害者雇用促進法の施行について」

（昭和51年10月1日 労働省職業安定局長から各都道府県知事あて）＜抄＞

第2 身体障害者及び重度障害者の範囲

3 身体障害者であることの確認

身体障害者であることの確認は、原則として身体障害者手帳によって行うものとするが、身体障害者手帳を所持しない者については、次の(1)及び(2)による医師の診断書によって確認するものとする（別添の「参考身体障害者程度等級表判定基準」を参照のこと）。（略）

(1) 身体障害者福祉法第15条の規定により都道府県知事の定める医師（以下「福祉法15条指定医」という。なお、身体障害者手帳の交付を受けようとするときは、この医師の診断書を添えて都道府県知事に申請しなければならないこととされている。）又は労働安全衛生法第13条に規定する産業医により法別表に掲げる身体障害を有するとの診断書（ただし、心臓、じん臓又は呼吸器の障害については、当分の間、福祉法第15条指定医によるものに限る。）を受けること。

(2) (1)の診断書は、障害の種類及び程度並びに法別表に掲げる障害に該当する旨を記載したものとすること。

- また、平成17年に策定された「プライバシーに配慮した障害者の把握・確認ガイドライン」においては、障害者雇用義務制度及び障害者雇用納付金制度の対象となる障害者の範囲について、身体障害者、知的障害者及び精神障害者であつて、障害者手帳等によって確認することとされている旨を明記するとともに、「身体障害者については、当分の間、都道府県知事の定める医師若しくは産業医による障害者雇用促進法別表に掲げる身体障害を有する旨の診断書・意見書（ただし、心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう若しくは直腸、小腸又はヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害については、当分の間、指定医によるものに限る。）によって確認を行うことも認められています。」との注記をしています。

同ガイドラインは、同年11月4日に、厚生労働省職業安定局長から「国の機関 人事担当者責任者」（官房長等）あてに通知されています。

「プライバシーに配慮した障害者の把握・確認ガイドライン」（抄）

3. 制度の対象となる障害者の範囲

(1) 制度の対象となる障害者の範囲

① 障害者手帳等による確認

障害者雇用義務制度及び障害者雇用納付金制度の対象となる障害者の範囲は、身体障害者、知的障害者、及び精神障害者であつて、以下の障害者手帳等によって確認することとされています。

- 身体障害者については、身体障害者手帳
- 知的障害者については、(イ)都道府県知事又は政令指定都市市長が交付する療育手帳（自治体によっては別の名称を用いる場合があります。例えば東京都においては愛の手帳。）又は(ロ)児童相談所、知的障害者更生相談所、精神保健福祉センター、精神保健指定医若しくは障害者職業センターによる判定書
- 精神障害者については、精神障害者保健福祉手帳（平成18年4月以降）

（略）

身体障害者については、当分の間、都道府県知事の定める医師若しくは産業医による障害者雇用促進法別表に掲げる身体障害を有する旨の診断書・意見書（ただし、心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう若しくは直腸、小腸又はヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害については、当分の間、指定医によるものに限る。）によって確認を行うことも認められています。